

## はじめに

本研究では、介護の専門性を明確にし確立するための第一歩として、第1部では介護の専門性に関する意識調査を行い、第2部・第3部では介護の本来業務と考えられる「支えるべき高齢者の生活」とは何かを明らかにする意識調査を行った。以下に結果の概要を報告する。

### 第1部 「介護福祉士の専門性」に関する意識調査

目的 介護福祉士の養成教育に携わっている介護福祉士養成施設の教員と、施設介護および在宅介護の現場で介護に携わっている多職種が、「介護福祉士の専門性」についてどのように意識しているかを検討することである。

対象 東日本大震災の福島県、宮城県、岩手県を除いた全国44都道府県の介護福祉士養成施設の介護教員、WAMネットのリストから無作為に抽出した全国44都道府県の介護老人福祉施設と介護老人保健施設の介護職・看護職・相談職とした。質問紙を7486件配布して1852件が回収された。回収率は24.74%であった。

日本全国を7つの圏域（北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州）に分け、圏域で人口密度順位の最上位と最下位の都道府県を調査対象地域（13都道府県）とした。但し、東北圏域は東日本大震災の福島県、宮城県、岩手県を対象から除外して抽出した。人口密度は平成22年国勢調査（総務省統計局）データに基づいて抽出を行った。対象となった13都道府県の在宅介護関連事業所〔居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、デイサービス（通所介護）事業所、訪問看護事業所〕のリストをWAMネットの登録リストから作成し、3500事業所（各事業所別875事業所）を抽出した（2段階抽出）。質問紙を7848件配布して1433件が回収された。回収率は18.26%であった。

調査内容と分析方法 安（2011 日本社会事業大学修士論文）により抽出された介護福祉士の専門性に関わる項目を用いてアンケート調査を行い、「そう思う」に4点、「どちらかというと思う」に3点、「どちらかというと思うわない」に2点、「そう思わない」に1点を与えて平均値を算出して質問項目の順位付けを行った。

### 主たる結果と考察

介護福祉士の専門性に関しては、図1に示す順位が得られた。

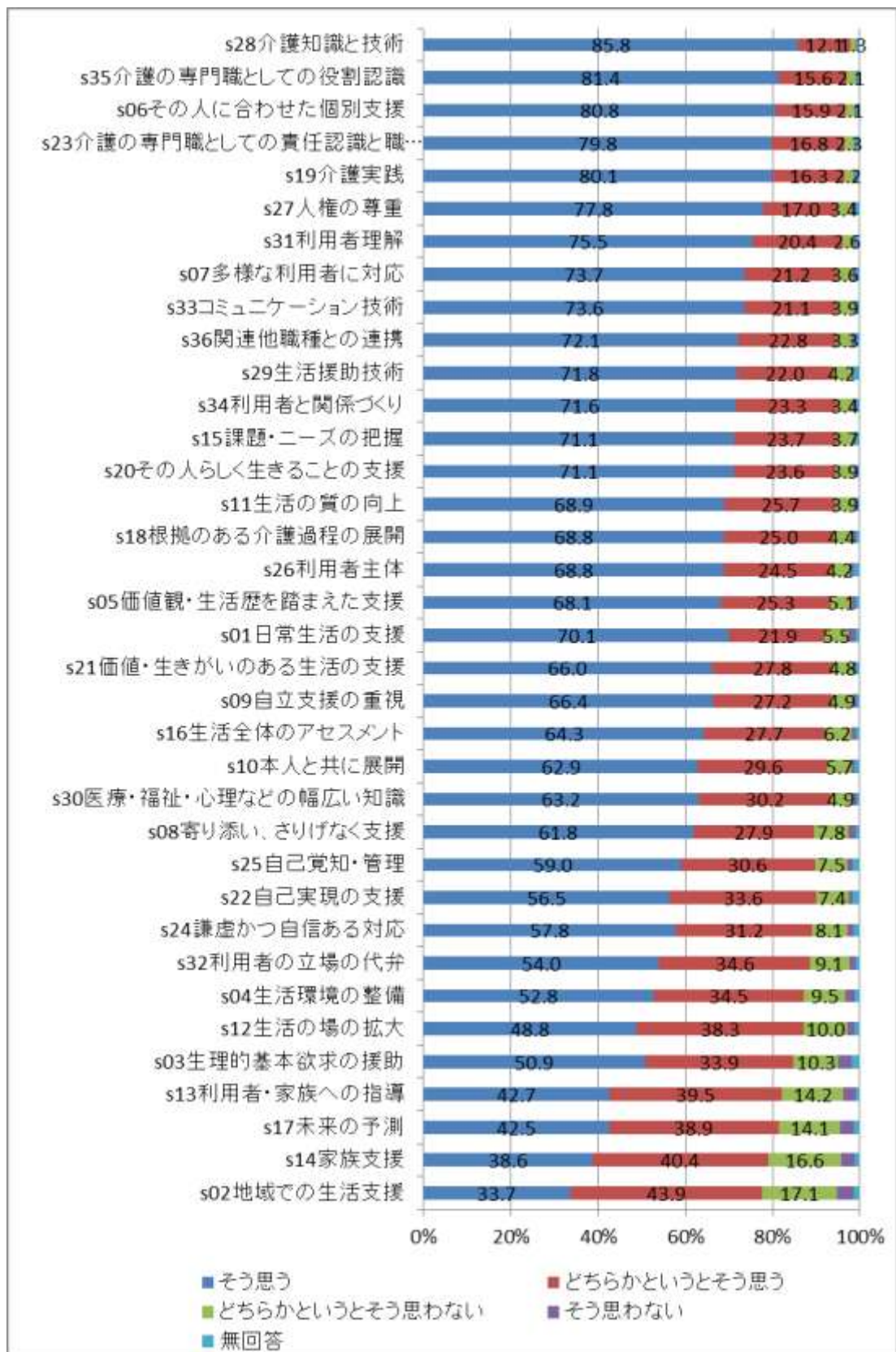


図1 「介護福祉士の専門性」に関する意識(平均値の降順)

本調査の「介護福祉士の専門性の有無」に関する設問の結果で、介護福祉士の専門性は無いと回答した者は回答者の9.0%にも達していた。介護福祉士養成施設で介護福祉士の教育に携わっている教員すら4.4%の者が専門性は無いと回答した。もっとも高い割合であったのは在宅の訪問看護職で15.6%、次いで訪問介護員が12.6%、介護支援専門員が11.6%、施設の看護職が7.1%、相談職が6.6%、介護職が6.0%の順であった。在宅介護関連事業所の「専門性無」は12.9%で、介護施設の6.4%よりほぼ2倍以上を示した結果からも、在宅介護に携わっている者がより介護福祉士の専門性が無いと考えていることが明らかになった。また、介護福祉士の資格ルートが国家試験合格者(8.2%)が養成施設卒業者(5.9%)より多くの者が介護福祉士の専門性が無いと考えていることも分かった。今後、その背景や理由について更なる検討が必要であると考えられる。

「介護福祉士の専門性がある」との回答した者の専門性に関する設問の回答のなかその平均値は養成施設が3.70でもっとも高く、介護施設(3.57)、在宅介護(3.53)の順に高く、施設介護従事者の意識が在宅介護従事者より一般的に高かった。しかし、「地域での生活支援」「利用者・家族への指導」「家族支援」「未来の予測」「謙虚かつ自信ある対応」「自己覚知・管理」においては在宅介護従事者の方が施設介護従事者より高かった。職種別には、相談職(3.58)、施設介護職(3.57)、施設看護職(3.56)、訪問看護職(3.55)、訪問介護職(3.53)と介護支援専門員(3.53)の順で、施設介護従事者の意識が在宅介護従事者より高かった。

総合的に考えると、介護福祉士養成施設の介護教員の介護福祉士の専門性に関する意識が最も高く、とくに介護過程の展開に関する項目の回答が高く理想的専門性について回答されたように考えられる。一方、施設や在宅の実践現場の多職種の介護福祉士の専門性に関する意識は「介護知識と技術」「介護の専門職としての役割認識」「介護の専門職としての責任認識と職業倫理」「その人に合わせた個別支援」「介護実践」「利用者理解」「人権の尊重」など実践上で意識された項目が高く回答されたように考えられる。これまで専門職としての基本要素として取り上げられてきた知識と技術、人権の尊重といった倫理などは、本調査においても介護福祉士の専門性として高く認識されていることが明らかになった。

## 第2部 要介護高齢者の生活に関するインタビュー調査

目的 介護福祉士の専門性を明らかにするために、知識や技術の種類や量のみからの定義ではなく、それらを活用して支える対象である要介護者の生活について、どのような「生活の要素」があるのかを明らかにすることを目的とする。

対象 介護現場に現在勤務しているか勤務経験があり、介護福祉士の養成課程を経て介護福祉士を取得した8名(男性3名、女性5名)を対象に、グループインタビューを実施した。

#### インタビュー内容と分析方法

グループインタビューの質問項目は、大きく二つに分かれ、1)高齢者の生活分類の資料を読み、それらの項目と比較して、利用者の生活を分類した場合、生活を構成する項目はどのようになると考えるか、2)自分自身が介護を行う上で、支援者として大切にしていることは何か等を尋ねた。逐語化したインタビュー結果を、KJ法を参考に分類した。

#### 主たる結果と考察

主たる結果を図2に示す。

介護福祉士の専門性の定義にむけて、まず要介護者の「生活にとって重要で不可欠な要素」をグループインタビューの結果から討議・分類した。その結果、「生活の要素」として、「何を行うか?」のみならず、「自己決定」「意思を伝える」「計画的に」など、生活の中には本人にとって「どのように行いたいか」の意思と本人なりの方法や計画があった。また、「行う」だけではなく、「何もしない」「充電」「避ける」「チャレンジ」という選択肢や、「対費用効果」「贅沢」「充実感」「満足」などの要素も挙げられた。要介護者に限らず、すべての人間は何らかの疾患等があり、それらの影響で完全な希望の実現は難しくても、人は体感的に充実感などを理解し、生活の原動力としていると考えられた。さらに、「影響・状態を受け入れる」「生活を変化させる」「他者の状態の理解」など、生活には他者と相互作用が必ず存在し、その影響を受け入れ、嫌な状態でも生活を継続していることなどが生活の要素として挙げられた。

また、要介護者特有の生活の要素として考えられるものには、発達または障害に応じて希望するものがあること、時に能力等を過少に「見誤られる」ことや、「本人と支援者の関係性の考え方」も指摘された。

### 第3部 要介護高齢者の生活に関するアンケート調査

目的 インタビュー結果を基にアンケート調査票を設計し、量的検証を行う。

対象 全国47都道府県のWAMネットのリストから2012年10月に確認された介護老人福祉施設6350施設に対して調査票を郵送した。対象は当該施設に所属

している介護福祉士とした。4283 件が回収された。回収率は 21.86%であった。

#### アンケート内容と分析方法

先行して行ったグループインタビューの結果により抽出されたカテゴリーおよび社会生活や生活科学における研究を参考により作成した。調査票は、生活の要素の項目加えて、年齢、性別、勤続年数、介護福祉士の取得年および取得方法、介護福祉士以外の資格、勤務経験のある事業種別について基本属性を加えた。なおアンケートの依頼に際して、以下の 3 点を依頼文において説明した。

- ・ 現在、お勤めになっている事業所（施設）において、高齢者に実際にその支援を提供できているかどうか等の実際は問いません。
- ・ 「要介護状態の高齢者」の状態像（疾病など）や居住地（施設や在宅など）の限定もありません。
- ・ それぞれの項目が「要介護状態の人の生活の要素に含まれる」と思うかどうか、あなた自身の考えをお聞かせください。

生活の要素に関する項目は、「とても思う」、「少し思う」、「あまり思わない」、「まったく思わない」の 4 件について、「とても思う」の回答数の順位から並べ、構成要素に含まれる項目の傾向をみることにした。また基本属性に回答傾向が異なる可能性があるため、クロス集計もおこなった。

主たる結果と考察

表1 単純集計 N=4283

順位	項目	項目内容	4とても 思う	3少し思 う	2あまり 思わな い	1まったく 思わな い	未回答
1	60	自分の状態にあったメガネ・補聴器を使う	3648	520	73	17	25
2	34	気候・季節に合わせて服を着替える	3644	536	68	18	17
3	32	生活の中で楽しみとしていることを大切にす	3614	571	73	12	13
4	61	テレビやラジオで、好きな番組を視聴する	3606	579	60	17	21
5	59	自分の状態にあった福祉用具を使う	3546	614	76	16	31
6	1	花や写真を飾って自分の居場所を居心地良く整える	3476	669	94	25	19
7	36	快適な環境で気持ち良く排せする	3441	699	102	22	19
8	64	髪やひげの手入れ、お化粧品などの身支度をす	3362	777	105	19	20
9	11	生活の中で充実した気持ちになるものを持つ	3323	742	171	27	20
10	18	他者・介護者と関わり話すことを楽しむ機会を持つ	3183	957	106	15	22
11	2	好きな時に好きな場所で過ごす	3166	950	126	29	12
12	56	自分の心身の状態に応じたケアを希望する	3111	1023	107	26	16
13	29	生活の中に選択肢がある	2915	1053	235	39	41
14	27	生活の中に好奇心や意欲を持って暮らす	2908	1153	181	25	16
15	22	これまでと異なる友人達との交流を待ち受ける	2878	1143	201	46	15
16	10	住んでいる場所周辺の散歩に行く	2842	1126	238	58	19
17	8	自分の心身の状態に応じた治療を希望する	2813	1196	217	35	22
18	21	生活にメリハリをつける	2731	1256	233	45	18
19	57	カーテンや家具など好みのものを整える	2665	1211	322	62	23
20	33	運動など体を動かして楽しむ	2565	1397	271	36	14
21	63	お祭りの席に参加する	2553	1335	319	51	25
22	50	地域のお祭りなどのイベントに参加する	2512	1364	331	61	15
23	38	習慣として続けてきた自分なりの健康法を行う	2403	1542	274	44	20
24	40	親しい友人やグループとの関係を築く	2372	1528	327	40	16
25	37	体を休めるために安静にする	2356	1415	422	61	29
26	58	生活の中で少しの贅沢をする	2294	1533	382	48	26
27	44	自己決定で考えながら行動する	2268	1527	396	80	12
28	30	一部分でも、今の状態より質の高いものを求める	2185	1620	417	39	22
29	25	スポーツ観戦して楽しむ	2184	1451	514	115	19
30	49	部屋の模様替えや整理整頓をする	2089	1660	434	85	15
31	47	家族や他社を気に掛ける・心配する	2085	1785	348	39	26
32	31	自分か決めた時間にお風呂をとる	2062	1586	535	85	15
33	4	手紙・電話・メールなどのやり取りをする	2059	1426	535	213	50
34	43	お墓参りや法事、ミサ(礼拝)などに行く	2047	1638	461	120	17
35	15	出来る範囲の家事など自分の事をほまほ自分で行う	2039	1734	402	98	10
36	62	生活の中でやりたしことや譲れぬ事を持つ	2032	1786	387	47	31
37	41	習い事や趣味の集まり学習の場に行く	2003	1654	517	87	22
38	46	習い事や趣味の成果を披露・教える	1913	1670	546	135	19
39	54	新聞・テレビ・雑誌などのマスメディアを利用する	1789	1664	653	147	30
40	45	店頭、またはカタログなどで品物を購入する	1786	1631	677	174	15
41	12	充実した気持ちになるために、生活のスケジュールを立てる	1783	1641	734	104	21
42	7	知識を増やすなどの教養をたかめる	1689	1447	944	174	29
43	14	行きたい場所を決めて、泊りがけの旅に行く	1655	1690	698	213	27
44	19	選挙に行くなどの政治活動を行う	1612	1551	830	269	21
45	39	他者の心持などの状態に気づく	1516	2066	608	60	33
46	53	公共交通機関を利用して外出する	1396	1650	936	282	19
47	23	他者と共に暮らすことで生じる出来事を受け入れる	1349	2304	541	61	28
48	17	次い何かをするためのエネルギーを充電する	1318	1846	919	166	34
49	3	他者に文句を言ったり、口げんかをするところがある	1176	1922	871	258	56
50	20	心かときめく恋愛をする	1102	1632	1177	344	28
51	48	家族や他社の身の回りの世話をす	1051	1775	1186	251	20
52	52	今より力を伸ばし、新しいことに挑戦する	1038	1650	1287	279	29
53	42	今までできなかったことを出来るようにする	980	1581	1396	306	20
54	51	パチンコ・麻雀・競馬などギャンブルを楽しむ	939	1403	1190	727	24
55	55	他者からの働きかけや干渉がある	920	2075	1039	215	34
56	24	住む場所により生活様式が変化することを受け入れる	901	2180	998	179	25
57	13	他者、介護者の出す声や音を受け入れつつ暮らす	776	1919	1206	352	30
58	5	介護者によって技術の上手下手がある事を受け入れつつ暮らす	693	1550	1318	703	19
59	35	生活の中で性的な満足を得る	594	1312	1659	677	41
60	6	自分の生活について、それまでの過去と比較し満足する	579	1461	1721	475	47
61	9	年金以外の収入を得る方法(試算運用等)を持っている	545	1176	1775	738	69
62	28	介護者の人数の影響を受けつつ暮らす	407	1228	1674	944	30
63	26	他者やサービスのスケジュールに合わせる	404	1591	1665	605	18
64	16	ときに遠慮や我慢をしながら、嫌な状態でも暮らす	341	1376	1565	982	19

介護福祉士が要介護状態の高齢者の生活の要素に含まれると「そう思う」と「ややそう思う」と肯定的に示された43項目を分類して、生活の要素を図示したのが、図3である。介護福祉士が考える生活の要素とは、自立を支える支援、生活の楽しみの追究、家族や友人との交流、地域生活の継続から構成され、その良循環により、利用者のより主体的な生活が創造されることが示唆された。そして、より主体的な生活の創造のためには、自己決定や自己実現の支援が大切である点が明確になった。

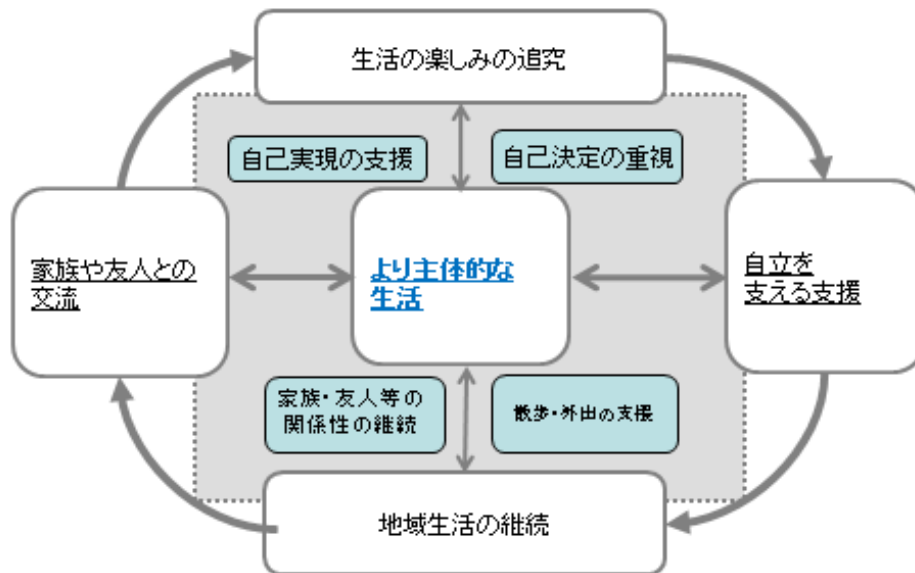


図3 高齢者の生活に含まれると「思う」に含まれる構成要素（概念図）